



チーム協働研修Ⅱ（初任者研修・10年経験者研修合同開催）

平成24年8月2日（木）実施

チーム協働 研修の趣旨

異年次の教員が合同研修の中で協働して学ぶことをとおして、実践的指導力やセルフマネジメント力、仲間意識を高め、職場における相互の人材育成を図るシステムについて学ぶ。

【研修Ⅰ】授業づくり

10年経験者と初任者がグループを構成して、グループごとに初任者が1学期の授業実践を発表し、意見交流が行われ、その中で10年経験者が指導・助言をしました。



《研修Ⅰで学んだこと》

初任者から出た質問

- Q1 全員参加の授業を行うための手立ては？
- Q2 課題の出し方によって、子どもの活動が制限されてしまったが、どうすればよいか？
- Q3 生徒が主体の授業とならず、教師主導の授業になりがちであるが、どうすればよいか？
- Q4 ワークシートの効果的作成方法は？

10年経験者(他の初任者)からの指導・助言

- A1 まず自分の意見を持たせ、ペアや班活動を活用してはどうか。
- A2 課題はシンプルに、子どもに分かりやすい言葉で。1時間の中に課題とまとめは必ずほしい。
- A3 教師が我慢をして、生徒同士で考える場面を仕組む必要がある。
- A4 ワークシートはシンプルすぎてもいけないが、丁寧すぎても生徒の表現力を狭めるので、注意する必要がある。

意見・感想

- ・ 10年経験者の先生方との協議をとおして、課題設定の仕方や指導案作成について学びを深めることができた。特に、発問の仕方や目標への迫り方に焦点を当てた協議となり、自分自身の考えを整理することができた。
- ・ 今回は初任者の先生方の実践からたくさん学ばせていただいた。やはり、チームで学んでいこうという気持ちがあれば、お互いの実践から学べることはある。私たちも自分自身の実践を振り返ることができ、有意義な研修となった。

【研修Ⅱ】ワークショップ「言語活動の充実をめざして」

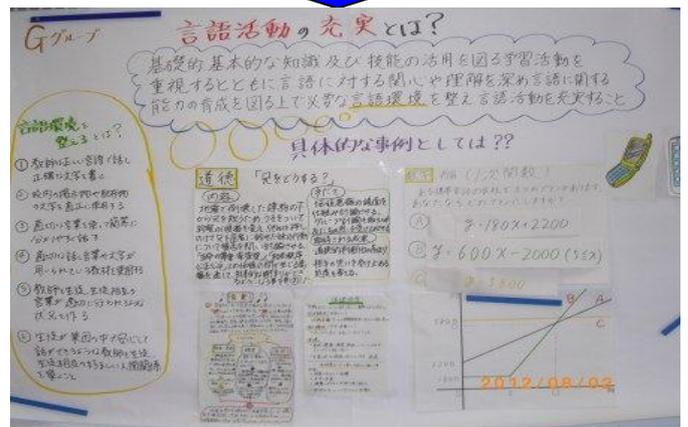
「言語活動の充実」をテーマに、言語活動を充実させるということはどういうことかを明らかにするとともに、言語活動の充実をめざした事例等を作成し、手立てや工夫等についてまとめ、成果物を作成しました。

その後、校種別に集合して、グループごとに協議内容や成果物について発表し、振り返りを行いました。

小学校

各班の成果物

中学校



裏面に続く

言語活動を充実させるための基本的な考え方とポイント ～小・中学校グループの成果物から～

1 言語環境を整える

具体的な手立て



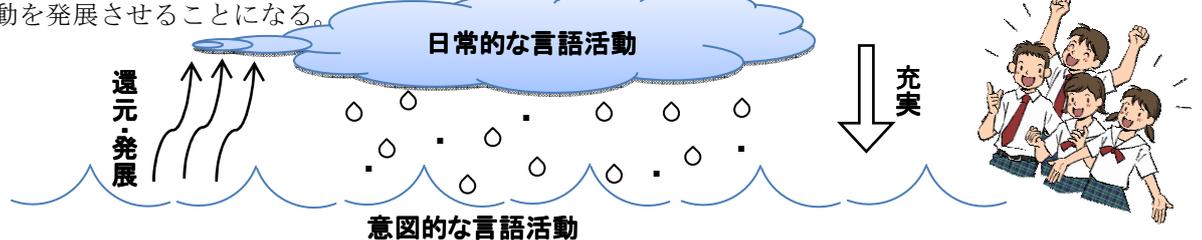
- 教師が正しい言語で話し、正確な文字を書く。
- 校内の掲示物や、配布物の文字を適正に使用する。
- 適切な言葉を使って、簡潔にわかりやすく話す。
- 教師と子ども、子ども相互の言葉が適切に行われるような状況をつくる。
- 子どもが集団の中で安心して話ができるような教師と生徒、子ども相互の好ましい人間関係を築く。

…つまり

教師が子どもにとって
最大の言語環境

2 意図的な言語活動と日常的な言語活動

言語活動には、授業の中で意図的に仕組まれた思考力・表現力を育てるための言語活動と、生活の中で日常的に行われる言語活動がある。それら2つはそれぞれ独立したものではなく、相関関係にある。つまり、意図的な言語活動を充実させるために、日常的な言語活動に日々取り組む、そしてそれがまた日常的な言語活動を発展させることになる。



各教科等で行われる言語活動例～小学校グループの成果物から～

- (国) 話型を活用してのペア対話
- (体) 作戦タイムを設定し、グループでの話し合い活動。視点を明確にしておき、ペアで評価し合う。
- (算) 式の説明をする。要所で止め、リレー型式で子どもが説明していく。
- (理) 実験結果を個々で図やグラフに表し、それらをもとにペアや班で話し合う。
- (道) 自分の思いを語るための書く・話し合う活動。役割演技や動作化、心情円を活用して道徳的価値に迫る、深める。

合同研修で協働して学んだこと～最後の班内シェアリングから～



【小学校】

- ・ 今まで言語活動とは、ペア対話やディベートのことであるという固定観念に捉われていたが、グループ協議や全体シェアリングをとおして、言語活動は様々な教科で実践できるということが分かった。
- ・ 試してみたい実践をたくさん知ることができた。2学期からの授業が楽しみである。

【中学校】

- ・ 知識の定着には、学んだことを言語活動を通じ、アウトプットする必要がある。そのためには、知識を裏付けとした、自信をつけさせる手立てが必要であると思った。
- ・ 知識・理解といった部分に重点を置くのではなく、身につけた力を外に発信していくことが重要であることが理解できた。

※実践的指導力やセルフマネジメント力の向上を…!

<研修全体をとおしての受講者の感想>

- ・ 午前中の研修では、アドバイスの難しさを感じた。どう話せば初任者の先生に理解してもらえるかを考えながら話すのが難しかった。初任者の先生は、子どもに真剣に向き合っていると感じた。初心にかえることができた。
- ・ 言語活動の充実のためには、今までの実践を見直して再構成することが大切だということだ。その際、それぞれの活動を単発で終わらせることなく、つなげていくこと、言語活動を意識的に学校の教育活動の中心に位置づけることに留意しなければならない。
- ・ 協議のテーマが「言語活動の充実」と、広く漠然としていて何から手をつけていいか分からなかったが、10年次の先生方が思考の道筋を示してくださり、「算教科における言語活動の充実」に焦点を絞って授業の構成を考えた。たくさんの気づきがあり、大変勉強になった。



グループで成果物を作成する受講者